

ハマ街ビト

横浜には、独自のサービスや技術などの強みを生かした魅力的な企業が多く存在しています。ここでは、LTR とも関わり合いの深い企業や、新たな事業展開で注目の企業を取り上げ、働く人にスポットを当てたインタビュー記事をお届けします。

阿蘇工業株式会社

電車の手すりや水道の蛇口、スプーンやフォークなどが製品化される前、最後に行われるのが「研磨加工の鏡面仕上げ」です。1969 年に横浜で設立し、「バフ研磨」「樹脂成形」を軸に事業を展開している阿蘇工業株式会社。2021 年 8 月 1 日に代表取締役役に就任した今津 太郎(いまづ・たろう)さんに、自社の強みや今後の夢などについてお聞きしました。



本社（横浜工場）は、県道 401 号瀬谷柏尾線沿い



阿蘇工業株式会社 代表取締役 今津 太郎さん

モノづくりの最終工程である強み

工場に一步入ると、そこには多種多様の製品や小さな部品が勢揃い。これらが研磨加工の技術によって、さらに美しく進化してゆきます。

——本当にいろいろなものがありますね。こういった工場に入るのは初めてなので、驚きました。

【今津】そうですね。今受注している製品は他にもありますが、大型で運び出せないものについては機械を持ち込み、出張作業で行います。逆に個人のお客さまから、小さな製品を 1 個単位で依頼することもありますよ。

——えっ、1 個からでも注文が可能なんですか？

【今津】はい。ここ数年、「テクニカルショウヨコハマ」やワークショップなどに出展したことで、個人のお客さまも増えてきました。基本的に、オーダーはすべて請ける形です。「個人、法人を問わず、1 個から量産まで」というのは、弊社の特長かもしれません。

——プロの職人さんが対応してくれると知ったら、「ぜひ、お願いしたい！」と依頼する方は多い気がします。

【今津】そうであれば、うれしいですね。個人も法人も、お客さまであることは同じなので、一つずつしっかりと対応することを心がけています。

——あらゆるお客さまのニーズに応える姿勢は、大きな“武器”になりそうですね。他に、会社の強みにしていることはありますか？

【今津】先ほどもお伝えした「個人も法人も請ける」という点です。私たちの仕事のほとんどは、製品完成に至るまでの“最終工程部分”に当たります。たとえば製作開始からスケジュールが遅れている場合、精密加工など機械にセットしてから加工時間が決まっている工程では、調整が難しくなります。でも、弊社はハンドワークで行うので、職人の手と専用の機械があれば、何とか最低必要数だけでも納期に間に合わせることが可能なんです。